（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	グラン・シード苗穂ルーム			
○保護者評価実施期間	2026年　1月　19日	～	2026年　2月　20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）		（回答者数）	
○従業者評価実施期間	2026年　1月　19日	～	2026年　2月　20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4名	（回答者数）	４名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学習スペースと活動スペースをしっかりと分け、清潔で心地よく過ごせる環境が整っている点が強みです。保護者の皆様からも「親が言語化できなかった困りごとを整理して教えてもらい助かっている」「毎日安心感をもって通所している」と、日々の丁寧な対応に高い評価をいただいております。	お子様が生活空間を分かりやすく把握し、落ち着いて過ごせるよう環境づくりを意識しています。完全に独立した個室はございませんが、クールダウン等が必要な際には、パーテーションを活用したり緊急的に職員室を使用したりするなど、柔軟かつ迅速に対応できるよう工夫しております。	パーテーション等の活用をさらに進め、集団活動の中でも一人ひとりがホッと一息つけるような「落ち着ける空間（個別スペース）」の工夫を深めてまいります。お子様のその日の状態に合わせ、よりきめ細やかに寄り添える環境を整備します。
2	活動プログラムが固定化しないよう、個別学習や、施設見学などの課外活動、スポーツ療育など、多彩な経験を提供できている点です。子どもたちが「帰ってきてから一緒に活動の様子を話してくれる」など、楽しみながら通所できていることが大きな強みです。	日々の送迎時や面談において、お子様の「成長面と課題点」を定期的にお伝えし、ご家庭と共通理解を持てるよう努めております。また、InstagramやLINEといったSNSを積極的に活用し、日々の活動の様子や行事予定をタイムリーに発信することで、ご家庭に安心をお届けしています。	「支援員によって知識がバラけていると感じる」というご意見を真摯に受け止め、今後は日々の支援終了後の振り返りや施設内での研修・情報共有の時間をさらに充実させます。チーム全体での支援力を高め、誰が対応しても質の高い均一なサポートを提供できる体制を強化してまいります。
3	SST（ソーシャルスキルトレーニング）やスポーツ療育、感覚統合やビジョントレーニングなど、専門性を活かした支援を提供している点です。一人ひとりの学習進捗や特性に合わせた個別支援と、ルールや思いやりを学ぶ集団活動をバランス良く組み合わせて支援を行っています。	子どもたちが「楽しい！」「やってみたい！」と思えるよう、運動の基礎から丁寧に教えるスポーツ療育や、楽しみながら学べる実験・季節の制作など、興味を引き出すプログラム作りを意識しています。幅広い経験を通じて、コミュニケーション能力や自立性が自然と育まれるよう取り組んでいます。	保護者様からいただいた「もっと外遊びや激しく体を動かす活動があると嬉しい」というご要望にお応えし、今後は公園での活動やスポーツの機会をさらに充実させ、子どもたちがのびのびとエネルギーを発散しながら成長できる環境づくりを進めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様を対象とした家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等の勉強会など）の実施や、保護者様同士、また地域の他の子どもたちと交流する機会が少なく、事業所外のコミュニティと接する経験に改善の余地がある点です。	子どもたちが安全に楽しく過ごせる環境整備と、日々の多彩な療育プログラム（学習支援・課外活動・スポーツ等）の提供に注力してきたため、家族参加型のイベント企画に十分な時間を割けておりませんでした。	保護者様から「年に数回、家族イベントを開催してくれている」とご好評いただいている取り組みをさらに充実させ、ご家族全員で気軽に参加し、自然な形で保護者様同士が交流できるような楽しいイベントを企画してまいります。形式ばった会ではなく、日頃の活動の延長線上で和やかに情報交換ができる場づくりに努めます。
2	常災害時に向けた避難訓練の実施や、防犯・感染症等の各種マニュアルの整備は進めておりますが、その取り組み内容や安全計画について、保護者の皆様へのご案内・周知がまだ十分に届いていない点に課題を感じております。	事業所内での防犯・感染症等のマニュアル整備や非常災害時の訓練自体は定期的に実施しておりますが、その取り組み内容をご家庭に分かりやすい形（お便りでの特集やSNS等でのご案内など）でタイムリーにお伝えする工夫が不足しており、結果として一部の保護者様に安心材料となる情報が届ききっていなかったことが要因です。	今後は、実施している避難・防犯訓練の様子や事業所の安全対策について、LINEやInstagram等を通じて保護者の皆様へ定期的に分かりやすく「見える化」し、さらなる安心感に繋げてまいります。
3	日々の手厚い支援体制は整っておりますが、職員間で療育に関する専門的な知識や、子どもへの対応方法に若干のばらつきが生じてしまうことがあり、チーム全体としての知識の均一化が今後の課題として挙げられます。	日々の業務に追われる中で、全職員が共通の知識やスキルを身につけるための深い研修や、その日行われた支援についてチーム全体でじっくりと振り返る時間を、一部十分に確保しきれていない日があったことが要因と考えております。	定期的な職員ミーティングや施設内研修の機会を増やし、知識の共有とスキルアップを図ります。お子様へのアプローチ方法や支援のねらいを全職員で共有し、より質の高い、一貫した療育を提供できるルーム体制を構築してまいります。